

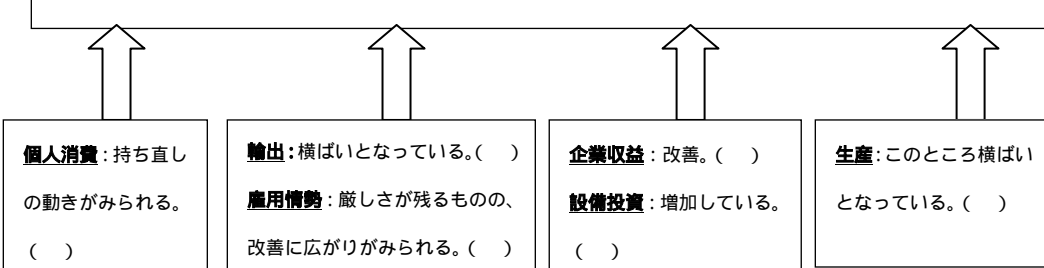
# マーケット・アイ (概観)

## 政府月例経済報告等

### 5月：基調判断

(6か月連続で据え置き)  
 <先行き>  
 企業部門の好調さが持続し、これが家計部門へ波及し国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。  
 (カッコ内は方向性を表示)

景気は、生産の一部に弱さがみられるものの、回復している。



月	我が国経済の基調判断	判断の方向性
05/8月	景気は、緩やかに回復している。	8月( ) 9~06/1月( )
06/2月	景気は、回復している。	2月( ) 3~10月( )
11月	景気は、消費に弱さがみられるものの、回復している。	11月( ) 12~3月( )
07/4月	景気は、生産の一部に弱さがみられるものの、回復している。	07/4月( ) 5月( )

景気動向指数 先行 1月 40.9p - 2月 27.3p - 3月 36.4p **5か月連続で50%を下回る。**  
 3月分改定値 一致 1月 30.0p - 2月 30.0p - 3月 10.0p **3か月連続で50%を下回る。**

## 物価指数 (前年同月比%)

全国消費者物価指数 (除く生鮮食品)	新基準
06/6 06/8基準改定	06/6 +0.2
新基準は05年基準	7 +0.2
国内企業物価指数	8 +0.3
8月+3.6%	9 +0.2
9月+3.6%	10 +0.1
10月+2.7%	11 +0.2
11月+2.6%	12 +0.1
12月+2.5%	07/1 ±0.0
1月+2.1%	2 0.1
2月+1.7%	3 0.3
3月+2.0%	4 0.1
4月+2.2%P	

## 日銀金融経済月報

## カレンダー

## 金利予想

### 5月：基本的見解 (10か月連続で据え置き)

わが国の景気は、緩やかに拡大している。

公共投資は、**足元横ばいとなっているが、基調としては減少している。**( )  
 輸出は、増加を続けている。( ) 生産は、増加基調にある。( )  
 設備投資は、引き続き増加している。( )  
 雇用者所得は、緩やかな増加を続けている。( )  
 個人消費は、底堅く推移している。( )  
 住宅投資は、振れを伴いつつ緩やかに増加している。( )

国内企業物価は、国際商品市況の反発などを背景に、**3か月前比でみて上昇に転じている。**( )  
 消費者物価(除く生鮮食品)は、原油価格反落の影響などからゼロ%近傍となっている。( )  
 先行きについては、景気は緩やかな拡大を続けるとみられる。  
 (カッコ内は方向性を表示)

	内容
5/29	4月の家計調査、4月の完全失業率
5/30	4月の鉱工業生産速報
6/8	4月の機械受注統計
6/11	1-3月期のGDP2次速報
6/14	金融政策決定会合1日目
6/15	金融政策決定会合2日目 金融経済月報、総裁定例会見
6/28	5月の鉱工業生産速報
6/29	5月の全国CPI / 5月の家計調査 5月の完全失業率/有効求人倍率

種類	今後1~2か月を展望	備考
無担コール (加重平均)	(O/N) 期間中の平均 0.50~0.53%	ON物は0.50~0.53%の比較的狭いレンジ内で安定しているが、日銀の中立調節と邦銀の底堅い調達ニーズを受け、平均レートは0.50%を上回って推移。
短期国債 (FB/TB)	(3M) 0.55~0.60% (6M) 0.62~0.68% (1Y) 0.72~0.80%	3Mは投資家のニーズが堅調でレートは落ち着いているが、長めの物は利上げ警戒感から上昇している。
C P (3か月物)	a-1+ 0.59~0.62% a-1 0.60~0.65% a-2 0.65~0.75%	1~2Mは運用意欲が強くレートは横ばいながら、3Mはやや上昇傾向となっている。

## 2007年4月の展望レポート

## 1~3月期実質GDP、9四半期連続のプラス成長、デフレーターもマイナス幅縮小

### 2007年4月「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)

指標	2005年度実績	2006年度実績	政策委員の大勢見通し (太字は中央値)		
			2007年度	06年10月時点の見通し	2008年度
実質GDP	+2.4%	+1.9%	+2.0~+2.1% <b>+2.1%</b>	+1.9~+2.4% <b>+2.1%</b>	+2.0~+2.3% <b>+2.1%</b>
国内企業物価	+2.1%	+2.8%	+0.7~+0.8% <b>+0.7%</b>	+1.1~+1.5% <b>+1.2%</b>	+0.8~+1.0% <b>+1.0%</b>
消費者物価 (除く生鮮食品)	+0.1%	+0.1%	+0.0~+0.2% <b>+0.1%</b>	+0.4~+0.5% <b>+0.5%</b>	+0.4~+0.6% <b>+0.5%</b>

\* 各政策委員は、政策金利について**市場金利に縛り込まれたとみられる市場参加者の予想を参考に**しつつ、上記の見通しを作成している。

### 経済・物価情勢の見通し (2007年4月)

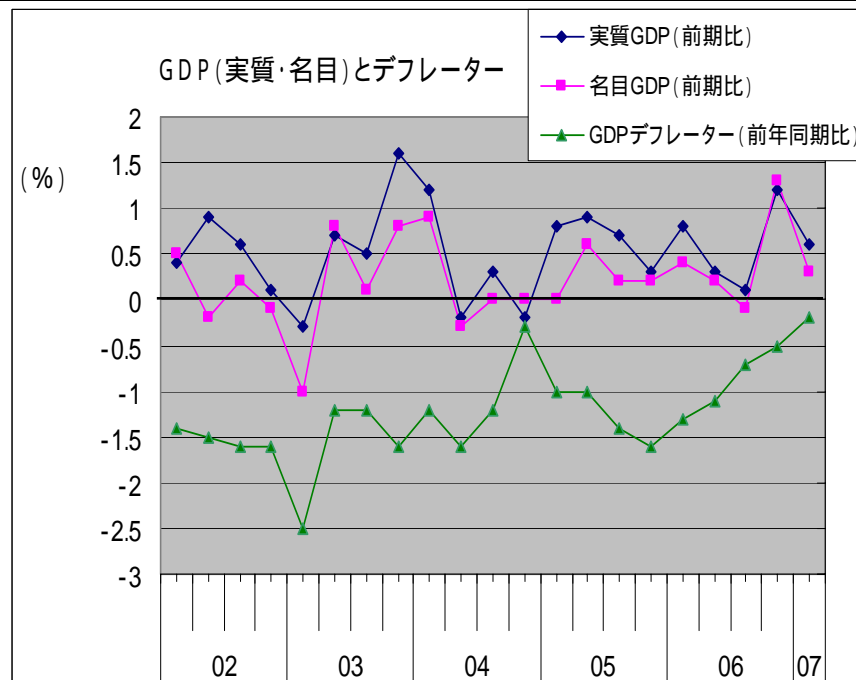
わが国経済は、緩やかに拡大している。好調な企業部門に比べると、家計部門の改善テンポがやや緩慢であるが、全体としてみれば、2006年度の経済は、前回(2006年10月)の「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)で示した見通しにおおむね沿って推移したとみられる。先行き2007年度から2008年度を展望すると、生産・所得・支出の好循環メカニズムが維持されるもとの、息の長い拡大を続けると予想される。成長率の水準は、2007年度、2008年度とも、潜在成長率を幾分上回る2%程度で推移する可能性が高い。消費者物価指数(除く生鮮食品)の先行きは、原油価格の動向にもよるが、前年比でみて目先はゼロ%近傍で推移する可能性が高いものの、より長い目でみると、プラス幅が次第に拡大するとみられる。その結果、2007年度はごく小幅のプラス、2008年度は0%台半ばの伸び率となると予想される。

### 上振れ・下振れ要因

経済情勢 海外経済の動向、IT関連財の需給動向、金融環境などの楽観的な想定に基づく、金融・経済活動の振幅の拡大  
 物価上昇率 需給ギャップに対する物価の感応度の低下、原油をはじめとする商品市況の動向

### 金融政策運営

リスク要因を点検しながら、経済・物価情勢の改善の度合いに応じたペースで、徐々に金利水準の調整を行う。



内閣府が17日発表した1~3月期のGDP一次速報値は、実質で前期比+0.6%、年率換算で+2.4%と、9期連続のプラス成長となった。設備投資が前期比で落ち込んだが、個人消費と輸出が下支えし、堅調な成長ペースを維持した。この結果、07年度の「成長率のゲタ」は1.2%を確保できる見通しとなった。また、06年度の実質成長率は1.9%増となった。一方、総合的な物価の動きを示すGDPデフレーターは前年同期比0.2%のマイナスで、下落幅は前期より0.3ポイント縮まった。ただ、単位労働コストは、前年比1.8%と、マイナス幅が0.8ポイント拡大した。